

宇治市制施行50周年

特集号



3.1

平成13年
(2001)

号外

発行 宇治市
編集 広報課

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33

☎ 22-3141(代表)

FAX 20-8779

ホームページ

<http://www.city.uji.kyoto.jp/>



宇治市制施行50周年

明日へはばたく

「みどりゆたかな住みたい 住んでよかった」

と感じあえるまちづくりをめざして

山々の深緑と宇治川の清流は、千年、幾百年の時空を超えて、変わらぬ姿を今に伝えていきます。宇治の地は、山紫水明がゆえに、いにしえより人々がたたずみ、栄華を極めた王朝文化を生み、源氏物語「宇治十帖」の舞台となりました。また、宇治川先陣争いなど幾多の合戦の場として日本史に刻まれてきました。

私たちは、先人が愛し親しんだこのふるさと宇治で、悠久の歴史に思いを馳せながら豊かな自然と歴史・文化に包まれながら、今、生活を営んでいます。

そして本年、二十一世紀の幕開けとともに、今日、私たちのまち宇治市では市制施行五十周年の輝かしい節目を迎えました。

宇治市は、一九五一年(昭和二六年)三月一日に東宇治町、宇治町、槇島村、小倉村、大久保村の二町三村が合併して誕生しました。

この五十年間の歩みを振り返って見ますと、水害や風水害による一連の財政逼迫をはじめ、人口急増に伴う都市基盤整備・社会施設整備のための困窮財政など幾多の試練を経験してきました。しかし、その都度、市民の皆様と市が一体となって英知を傾け、努力を重ねることによってそれらを乗り越え、今や、人口十九万を擁する京都府内第二の、そして京都府南部の中核をなす都市として、着実な発展を遂げています。

急激に変化する社会情勢と生活様式の多様化のなか、市制施行五十周年を迎えた宇治市は、十九万市民がほんとうに豊かさが実感でき、「みどりゆたかな住みたい 住んでよかった」と感じあえるまちづくりをめざして未来への新たな一步を踏み出します。

市のあゆみ

すてきなまちとの出会い、大切な人との出会い
出会いには、いろいろあると思う
だから、このまちで見つけてほしい
自分にとって本当に大切なものを……

昭和26年～35年

昭和26年3月1日、宇治市が誕生しました。当時の人口は約3万8千人、世帯数は約8千。市政発展の方向は茶と観光を中心に、第1次産業の振興を軸としたものでした。また、昭和28年に発生した大水害を契機として、天ヶ瀬ダム建設も、市政発展への大きな課題となりました。

- 昭26.3 宇治郡東宇治町、久世郡宇治町、横島村、小倉村、大久保村が合併し市制を施行
- 4 初代市長に山崎平次氏就任
- 12 「宇治市政だより」第1号発行
- 昭27.8 消防本部設置
- 11 教育委員会発足
- 昭28.1 宇治平等院鳳凰堂を図案化した新10円硬貨発行
- 8 南山城水害が発生。隠元橋など流失
- 9 台風13号来襲。宇治川左岸が決壊し巨椋池干拓地一帯が浸水
- 昭29.7 宇治警察署開署
- 11 第2代市長に池本甚四郎氏就任
- 昭30.2 尿汲み取り制実施
- 昭31.5 地方財政再建促進特別措置法による自主再建団体となる
- 昭32.3 平等院鳳凰堂修復完成
- 11 市営茶室「対鳳庵」完成
- 昭33.11 第3代市長に新庄義信氏就任
- 昭34.7 消防署救急業務を開始
- 8 集中豪雨により、六地藏一帯の住家床上浸水
- 昭35.5 炭山林道完成
- 12 市議会で世界連邦平和都市宣言を決議



昭26.3 2町3村が合併して宇治市がスタート



昭28.9 宇治川左岸の堤防の決壊により巨椋池干拓地一帯が浸水(現在の近鉄京鞍線、小倉駅付近)

人口 3.8万人

1951

昭和36年～45年

昭和30年代後半から加速し始めたわが国の高度経済成長は、大都市への人口集中を生み出しました。宇治市でも鉄道沿線を中心に急激な住宅建設、人口急増が起こり、昭和45年4月には10万人に達しました。この社会増を中心とする人口急増によって、本市は大都市近郊の住宅都市としての性格を強めました。急激な都市化の波は近代都市建設に向けて歩む本市にとっては教育・保育施設の新・増設をはじめ、住宅・道路・環境・衛生対策などの新たな都市問題への対応が迫られた時期でした。



昭39.9 東京オリンピック聖火リレーが宇治市を通過

- 昭36.4 国鉄黄檗駅開業
- 9 第2室戸台風による被害が発生
- 昭37.6 宇治保育所に乳児部設置
- 昭38.8 宇治琵琶33番地に新庁舎完成業務開始
- 第1回平和祈念式挙行。「希望の鐘」始鳴
- 昭39.9 城南衛生管理組合し尿処理運転開始
- 東京オリンピック聖火リレー-宇治市を通過
- 11 天ヶ瀬ダム竣工式
- 昭40.4 市民会館開館
- 宇治中学校で工業用テレビカメラを採用しテレビ授業を開始
- 昭41.8 『平和の像』除幕
- 10 黄檗公園野球場完成
- 昭42.2 公害対策会議設置
- 9 第1回市民総合体育大会開催
- 昭43.8 ごみの曜日収集開始
- 昭44.10 自動車文庫「そよかせ号」が巡回開始
- 昭45.1 喜撰山湯水たぎ完成発電開始
- 市民合唱・再歌を制定
- 人口10万人突破
- 11 第6代市長に田川熊雄氏就任



昭44.10 自動車文庫「そよかせ号」が巡回開始

1961

昭和46年～55年

人口は急増を続け、昭和50年10月には約13万3千人、昭和54年8月には15万人に達しました。旧町村の集落は新興住宅地とつながり、市街地は一つの大きな固まりとなりました。都市化に伴う人口の急増と転入・転出増という激しい住民移動は、市民の近隣意識にも大きな影響を与え、安定した地域づくりと総合的・長期的なまちづくりへの指針が懸案となりました。昭和50年に「みどりゆたかな住みたい住んでよかった都市」を都市像として掲げた宇治市総合計画を策定。昭和55年には、ローリングシステムによる実施計画を策定し、総合計画の具体化に本格的に着手しました。

- 昭46.3 東宇治中学校学区分校廃止
- 昭47.6 宇治川歩道橋「朝霧橋」完成
- 9 市社会福祉協議会が社会福祉法人となる
- 昭48.4 宇治市史第1巻発行
- 国道24号線大久保バイパス開通
- 8 西宇治公園アール開設
- 昭49.3 クリーン宇治運動が始まる
- 4 第7代市長に渡辺博氏就任
- 昭50.7 宇治市あき地の雑草等の除去に関する条例(草刈り条例)施行
- 8 古紙回収事業を開始
- 10 小規模住宅地開発等に関する指導要綱施行
- 12 第1次・市総合計画を策定
- 昭51.3 都市計画道路宇治橋若森線が全面開通
- 12 第8代市長に島田正夫氏就任
- 昭52.8 宇治川のアンモドキが天然記念物に指定
- 10 宇治市旗を制定
- 12 「燃えるごみ」週2回収実施
- 昭53.5 市中心障害者共同作業所開所
- 6 仙郷山廃棄物埋立処分場開設
- 昭54.8 人口15万人突破
- 休日急病診療所・保健医療センター開設
- 12 市実施計画第1次3か年計画策定
- 昭55.4 各小中学校で米飯給食の実施
- 5 第1回青空市民相談を開始
- 12 第9代市長に池本正夫氏就任



昭47.6 宇治川歩道橋「朝霧橋」完成



昭55.5 第1回青空市民相談を開始

1971

昭和56年～平成2年

京滋バイパスや府立山城総合運動公園など、国や府の大規模事業を積極的に受け入れるとともに、昭和63年の京都国体、平成3年の京都みどりの祭典(全国植樹祭)を契機として、都市基盤整備を促進。また、海外3都市との友好都市盟約の調印をはじめとする活発な国際交流、「紫式部文学賞」「紫式部市民文化賞」の創設など、文化都市としての取り組みを進めました。

- 昭56.3 市の木(もみじ)、市の花(やまぶき)、市の宝木(茶)を制定
- 昭57.2 集上り遺跡の瓦窯跡発見
- 3 京都府立山城総合運動公園(太陽が丘)一部開園
- 市観光センター完成
- 昭58.1 総合福祉会館完成
- 6 庁舎第1期工事完成
- 9 人口16万人突破
- 昭59.2 第1回宇治川マラソン大会
- 4 斎場開設
- 10 国鉄奈良線電化開業
- 文化センター開館(文化会館・中央図書館・歴史資料館・中央公民館)
- 昭60.3 漢字オンラインによる住民記録システム稼働
- 昭61.4 スリランカ・ヌワラエリア市と友好都市盟約調印
- 5 折居清掃工場・粗大ごみ処理施設竣工
- 7 中国・咸陽市と友好都市盟約調印。東宇治浄化センターの通水
- 昭62.4 市産業会館開館
- 人口17万人突破
- 10 近鉄大久保駅高架完成
- 市議会で核兵器廃絶平和都市宣言を決議
- 昭63.4 天ヶ瀬森林公園開園
- 8 京滋バイパス開通
- 黄檗体育館開館
- 新しい「平和の像」建立
- 9~10 第43回国民体育大会=京都国体夏季大会(水泳競技・秋季大会(サッカー・ソフトボール・馬術競技)開催
- ふるさと創生事業で「紫式部文学賞」が決定
- 平元.10 市公共下水道南処理区の一部で供用開始
- 平2.3 市の鳥(カワセミ)を制定
- 7 カナダ・カムループス市と友好都市盟約調印
- 8 第1回小・中学生広島訪問団派遣



昭59.2 第1回宇治川マラソン大会(市役所前)



昭63.8 京滋バイパス開通

1981

平成3年～13年

計画的、効率的な行財政運営で新庁舎や植物公園も完成。「源氏物語」をテーマとするまちづくりも積極的に進めるなど、都市経営の発想を取り入れながら21世紀のふるさと宇治づくりを目指しています。他方においては市民と行政のパートナーシップのもと自主性・自立性のあるまちづくりに向けた地方分権の時代がいよいよスタート。

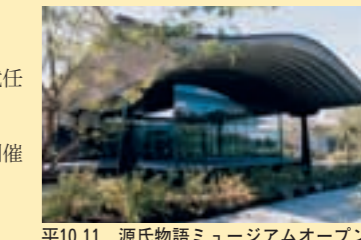
- 昭63.5 京都みどりの祭典が宇治市で開催
- 昭64.2 人口18万人突破
- 昭65.3 第2次行政改革大綱を策定
- 4 市営茶室「対鳳庵」建替
- 昭66.1 生涯学習センター開所
- 5 老人保健福祉計画を策定
- 10 J R六地藏駅開業
- 12 宇治上神社・平等院がユネスコ世界遺産に登録
- 昭67.3 女性施策推進プラン「UJIあさぎプラン」策定
- 昭68.3 新宇治橋開通
- 9 植物公園開園
- 12 第13代市長に久保田勇氏就任
- 昭69.8 京阪宇治駅前広場完成
- 全国高校総体が宇治市で開催
- 昭70.4 情報公開条例施行
- 9 人口19万人突破
- 10 子育て支援センター開設
- 11 源氏物語ミュージアムオープン
- 昭71.4 西宇治体育館開館
- 6 総合野外活動センター「アクトバル宇治」開園
- 白川林道が開通
- 昭72.4 女性ルームオープン
- 7 那覇市で2000円札発行記念イベント
- 8 J R宇治駅新駅舎開業

18万人

19万人



昭68.3 新宇治橋開通



昭70.11 源氏物語ミュージアムオープン



昭72.7 2000円札発行記念セレモニー(那覇市)

1991

祝辞



京都府知事 泉 啓一

二十一世紀の幕開けとともに、宇治市が市制施行五十周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。宇治市は、昭和二十六年三月、二町三村の合併により誕生し、以来、京都府南部の中核都市として大きく発展を遂げ、ここめでたく五十周年の節目を迎えられました。この半世紀は、我が国が敗戦の淵から奇跡的ともいえる復興を遂げ、高度経済成長や石油危機、さらにバブルの発生と崩壊などの道程を経て今日に至るまでに激動の時代でありました。このような中で、豊かな自然環境や歴史・文化に恵まれた宇治市は、京阪神大都市圏に近接する優れた立地条件ともあわせて、昭和三十年後半から急速に都市化が進行し、これに対応して、道路、住宅、上下水道、公園などの都市基盤整備をはじめ、学校、文化・スポーツ施設、健康福祉施設の整備など快適で住み良い都市づくりが積極的に進められてまいりました。近く完成をみるJR奈良線の高速度化・複線化や宇治駅・小倉駅の整備をはじめ、京都市高速鉄道東西線の六地藏への延伸など、将来の宇治市の発展を支える基盤整備も着々と進んでいます。また、「源氏物語・宇治十帖」の舞台となった宇治市ならではの歴史ロマンあふれるまちづくりは、「紫式部文学賞」や「源氏物語ミュージアム」などの多彩な事業展開を通して、市民はもとより全国そして世界へと宇治市の魅力を創造、発信しています。この市制施行五十周年を契機に、久保田市長を中心として市民の皆様が力を合わせて新世紀のまちづくりに邁進されることを念願いたしますとともに、緑豊かで歴史文化の香り漂うふるさと宇治市が今後ますます発展することをお祈り申し上げます。お祝いの言葉といたします。

「ふるさと宇治」の新たな創生に向けて



宇治市長 久保田 勇

昭和二十六年三月一日に二町三村が合併して誕生いたしました宇治市は、本年、市制施行五十周年を迎えました。この間、市民の英知と創意をもって幾多の困難と苦境を乗り越え、都市基盤整備はもとより福祉や教育、産業など、あらゆる分野におきまして、京都府南部の中核を担って、着実に発展を遂げてまいりました。とりわけ、紫式部文学賞の創設や源氏物語ミュージアムをはじめ、恵まれた歴史・文化遺産を生かした源氏物語まちづくりは、宇治市を全国に発信する取組として大きな注目を集め、植物公園や総合野外活動センター・アクトバル宇治も思いの場として大きな役割を果たしており、これもひとえに、市民の皆様方並びに関係機関の惜しみないご協力・ご支援の賜ものと、心から感謝を申し上げます。本市では、先人が築いてこられた軌跡を顧みながら五十周年を新たな飛躍の年として位置付け、二十一世紀のまちづくりの出発点にふさわしい記念事業を市民参画のもとに展開してまいります。また、今世紀百年に宇治市が歩む発展への道りの強固な基盤を築くため、第四次総合計画を市民のための総合計画として根付かせ、施策の一つひとつを着実に実現してまいらねばならないと考えております。加えて、二十一世紀は、地方分権が大いに進展する時代であり、自然環境との調和に配慮しながら、歴史と伝統に輝き、夢と希望に満ち溢れた「ふるさと宇治」の新たな創生に邁進してまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層のご協力をお願い申し上げます。



宇治市議会議員 小坂 正人

昭和二十六年三月一日に、二町三村が合併して市制を施行しました本市が、ここに市制施行五十周年を迎えましたことを、心から祝いたいと存じます。この間、宇治市は、市民の皆様とともに多くの試練を乗り越え、都市基盤をはじめ福祉、教育などの整備を進め京都府南部の中核都市として大きく発展を遂げてまいりました。これもひとえに、市政発展のためにご尽力をいただきました市民の皆様はじめ関係各位のご支援・ご協力の賜ものと、心より敬意を表しますとともに、深く感謝を申し上げます。

議会は住民の代表機関として、三十二名の議員により市民の皆様のご意見を市政に反映し、調和のとれた住民福祉の実現に向けての道程を、市民の皆様とともに歩んでまいりました。今日、地方分権の推進とともに、地方公共団体の自己決定権と自己責任が拡大されることに伴い、議会の果たすべき役割は一層重要となり、制度、運用の両面にわたって議会の活性化し、議会の機能の充実に責務の遂行とともに求められているところでございます。

宇治市議会は、二十一世紀の幕開けとともに迎えました市制五十周年という本年を、宇治市が大きく飛躍してまいりますさらなる機会として、市民の皆様方とともに「ふるさと宇治」の創造に向けて、全力を傾注してまいりたいと存じます。市民の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

将来に目標を持った 20万都市のまちづくりを

上田正夫さん（市自治功労者）
広野町在住

旧大久保村会議員から宇治市議会議員の二十四年間、宇治市が誕生した前後を議員として多くの皆様に接し、ご指導をいただいたことは私の人生の中の大事な一ページです。
昭和三十年代前半、市

は、財政の赤字を脱出するために、地方財政再建促進特別措置法による自主再建団体となりました。当時の池本甚四郎市長の市財政を立て直すための政策（行政内部の整理・議会の議員定数の見直し・工場誘致条例による活性化など）には行政マンとしての素晴らしさを感じさせられました。その中で、議会運営は難しく、それが私を大きくさせてくれたと思っています。
近い将来、市の人口が二十万人を超えれば、特例市として独自の権限が与えられます。そうなればもっと自由な政策が生まれるはず。市民の要求に合った市民のための取り組みが今以上にできるのではないのでしょうか。

私も来年には米寿を迎えます。二十一世紀を迎え、これから高齢社会は進展します。市は、市民と行政のパートナーシップによる協力関係を大事にして、人に

優しい地域、交通・生活環境のバリアフリー化に全力を傾けて、だれもが住みやすいまちづくりを更に推し進めていきたいと思えます。



「歴史・文化都市宇治」 21世紀の出発に向けて

紫式部の源氏物語・宇治十帖の舞台となり、また古くは古事記や万葉集などの歴史文学に登場するなど悠久の歴史を育んできた宇治市。歴史と文化を調和させながら、新たな世紀の幕明けとともに、市制施行五十周年を迎えました。今日までを振り返りながら、思い出やこれからの宇治市に期待することを語っていただきました。



英語で表示されている所が 増えてほしい

パドマ・ブラダンさん
コピラ・シバコティさん
（京都文教短期大学留学生）

昨年四月から京都文教短期大学にネパールから留学し、幼児教育課程で勉強しています。日本に来て感じたのは、技術が

進んでいて便利で生活するのに優しいということ。ネパールでは勉強しながら働かなければならない学生がたくさん

います。不便だと感じているのは、駅やいろいろな施設を利用しようと思っても、英語で表示されている所が少ないことです。漢字は難しいので、英語で表示されていると助かります。分からなければ人に聞いています。日本人はとても親切に教えてくれるので助かっています。日本語の勉強はともにおもしろいのですが、まだ自分の思っていること



パドマ・ブラダンさん（右）と
コピラ・シバコティさん（左）

を上手に表現できません。それがとても悔しいです。あと一年ここで勉強する

ので、日本語が上手に話せるようになって、友達をいっぱい作りたいです。

「生きる力」を身に付け 成長してほしい

山口キミコさん（菟道第二小学校校長）
菟道在住

昔は、学校から帰ったらまず一番に家の手伝いをすることが当たり前で、そのような体験からごく自然に

いろいろなことを学んだよ。うな気がします。今は便利になり子どもの数も少なくなってきたせいか、そんな機会

も少なくなってきました。最近、学校では体験学習などを積極的に取り入れています。その中から自ら学び、自ら考える「生きる力」を身に付け、学力だけではなく心の面も成長してほしいです。

二十一世紀という時代を担う子どもたちには、情報化・国際化の中で期待されることたくさんあります。まずは健康で、そして多くの人と触れ合いながら、心豊かにたくましく育ってほしいと思います。

集団茶園の実現が夢

小島 佳剛さん（茶生産者）
白川在住

市制施行五十周年は、宇治市で生まれ育った自

分の歳と重なります。思い出という、昔は家の前の道も行き止まりで舗装もしてなかった。それが昭和四十四年に立場林道が完成して、宇治田原町に抜けられるようになって随分便利になったという。最近では宇治橋の架け替えが印象に残ります。

もう三十年、宇治茶の生産に携わっています。以前はお茶摘みさんの人手がなくて苦労したのですが、九年前に茶生産組合の茶摘み子確保対策事



業ができてから、最近はお茶摘みをしてくれる人が増えて助かっています。宇治市は小さな茶園が点在しているので、集団茶園の実現が夢です。宇



子どもがいても安心して 働ける環境に

辻 里九子さん（主婦）
伊勢田町在住

宇治市に来て一年半ですが、ここはとても静かで自然もまだ所々に残っていて住みやすいところだと思えます。もうすぐ生まれる子どもと気軽に公園に行きたいのですが、家の近くには小さい公園しかなくて遊びにくいという感じがします。もっと元気に走り回れるような広い公園がほしいですね。

もうすぐ、小学校から英語の授業が始まるというところもあるので、外国との文化の交流がもっと進み、小さいときから生きた英語に触れられるように、家族や子ども連れで参加できる催しなどがあれば嬉しいですね。また、いずれば働きたいと思っているので、保育園の受け入れなどの体制が充実して、子どもを持つ母親も安心して働ける環境になればいいと思います。